

2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月12日

上場会社名 サークレイス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5029 URL <https://www.circlace.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 佐藤 司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 古川 光瑛 (TEL) 050 (1744) 7546
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	1,000	24.0	△64	—	△66	—	△32	—
2025年3月期第1四半期	807	—	△51	—	△44	—	△19	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △41百万円(—%) 2025年3月期第1四半期 △58百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△7.58	—
2025年3月期第1四半期	△4.44	—

(注) 1. 2024年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 2025年3月期第1四半期及び2026年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	1,653	884	54.6
2025年3月期	1,822	929	54.5

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 903百万円 2025年3月期 992百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	20.9	350	71.9	350	71.5	230	25.0	52.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
詳細は、添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	4,360,236株	2025年3月期	4,344,385株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	69株	2025年3月期	69株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	4,350,297株	2025年3月期1Q	4,281,903株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2025年8月12日(火)に決算説明資料及び決算説明会動画を当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(重要な後発事象)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2025年4月から6月にかけての日本経済は、内需に支えられた回復基調を維持しつつも、外需に関しては厳しい展開となりました。米国による「トランプ関税」の影響が輸出企業の収益環境を悪化させ、製造業を中心に成長の足かせとなった一方で、非製造業では設備投資が堅調に推移し、省力化や効率化に向けた取り組みが企業活動を後押ししました。個人消費は一部に拡大の兆しが見られるものの、全体としては伸び悩む局面が続いています。

金融市場では、日経平均株価が一時4万円台を回復し、内需関連株が投資家の注目を集めました。為替は円高傾向が続き、加えて原油価格の低下により輸入コストが軽減されたことで、企業収益の改善に寄与しています。加えて、景況感を示す景気DI（ディフュージョン・インデックス）も小幅ながら上昇しており、企業の設備稼働率の向上や季節需要が支えとなっている状況です。

一方、国内のパブリッククラウドサービス市場では、生成AIやAIエージェントの活用が急速に広まり、力強い成長が継続しています。IDC（注1）によると、2024年の市場規模は約4.1兆円に達し、2029年には8.8兆円にまで拡大する見通しが示されています。企業においては、翻訳、文書の要約、プログラミング支援などを目的に、SaaS型のクラウドサービスとして生成AIの導入が進んでいます。さらに、AIエージェント技術の発展により、業務の自動化およびプロセスの抜本的な改革が加速しており、クラウドベンダー各社はAI関連の開発基盤やデータプラットフォームの強化に注力しています。

加えて、5Gネットワークの普及やAI対応型データセンターの新設など、インフラ面での進展がクラウド需要をさらに押し上げる要因となっており、通信・IT分野は一段と高度なデジタル化へと向かっています。このように、当該四半期は内需の安定性とクラウド技術の進化が相まって、日本経済およびIT市場の競争力を高める重要な局面となりました。

このような状況下、当社グループにおいては、コンサルティングサービス、SaaSサービス、アオラナウ株式会社（連結子会社）が提供するサービスの各サービスで堅調な売上を確保し、結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,000,871千円（前年同四半期比24.0%増）となりました。

一方で、継続した人的資本投資のための人件費及び社員募集費が増加し、さらに、本社移転による地代家賃、システム関連費用等が増加しており、売上原価が555,552千円（前年同四半期比15.0%増）、販売費及び一般管理費が509,603千円（前年同四半期比35.6%増）となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの実績は、営業損失64,284千円（前年同四半期は営業損失51,281千円）、経常損失66,116千円（前年同四半期は経常損失44,306千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失32,993千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失19,030千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。

① コンサルティング事業

当第1四半期連結累計期間におけるコンサルティング事業の売上高は821,702千円（前年同四半期比13.5%増）という結果になりました。

そのうち、AI&Data Innovationの売上高は401,485千円（前年同四半期比28.6%増）、コンサルティングの売上高は380,160千円（前年同四半期比0.7%増）、SaaSサービス（AGAVE）の売上高は40,056千円（前年同四半期比18.1%増）であります。

Salesforceを主力としたコンサルティングサービスの売上は堅調に推移しております。また、AGAVEにおきましては、前年度に実装しました海外給与計算機能が寄与し、こちらも堅調に推移しております。

② アオラナウ事業

当第1四半期連結累計期間におけるアオラナウ株式会社の売上高は179,169千円（前年同四半期比114.1%増）と実績が急伸し、業績に大きく貢献しました。

同社は、2023年8月にパソナグループとの共同出資により設立した会社であり、売上を順調に伸ばしております。

※用語解説

（注1）IDC：IDC Japan株式会社の略で、IT及び通信分野に関する調査・分析・アドバイザーサービス、イベントを提供するグローバル企業。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は972,675千円となり、前連結会計年度末と比べ356,752千円減少しました。これは主に現金及び預金が513,680千円減少したことに対して、売掛金が17,749千円増加、前払費用が76,056千円増加したことによるものであります。主な内訳は、現金及び預金319,673千円、売掛金448,686千円、前払費用128,502千円であります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は680,794千円となり、前連結会計年度末と比べ187,645千円増加しました。これは主に有形固定資産が186,183千円増加、投資有価証券が50,000千円増加したことに対して、敷金及び保証金が61,675千円減少したことによるものであります。主な内訳は、有形固定資産205,915千円、のれん117,742千円、投資有価証券109,470千円、敷金及び保証金128,764千円、繰延税金資産87,476千円であります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は709,019千円となり、前連結会計年度末と比べ124,749千円減少しました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が14,570千円減少、未払法人税等が59,774千円減少、未払消費税等が64,516千円減少、賞与引当金が112,620千円減少したことに対して、未払金が37,518千円増加、契約負債が18,398千円増加したことによるものであります。主な内訳は、買掛金52,668千円、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債148,660千円、未払金107,603千円、未払費用81,227千円、未払消費税等41,514千円、契約負債140,904千円、賞与引当金37,716千円であります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は60,278千円となり、前連結会計年度末と比べ750千円増加しました。これは株式給付引当金が750千円増加したことによるものであります。主な内訳は、転換社債型新株予約権付社債48,232千円、株式給付引当金12,046千円であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は884,171千円となり、前連結会計年度末と比べ45,107千円減少しました。これは主に資本金が5,719千円増加、資本剰余金が5,719千円増加、非支配株主持分が44,393千円増加したことに対して、利益剰余金が100,259千円減少したことによるものであります。主な内訳は、資本金413,753千円、資本剰余金462,388千円、利益剰余金25,953千円、非支配株主持分△18,922千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月13日に「2025年3月期 決算短信」で発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	833,354	319,673
売掛金	430,936	448,686
前払費用	52,446	128,502
その他	12,689	75,812
流動資産合計	1,329,427	972,675
固定資産		
有形固定資産	19,732	205,915
無形固定資産		
ソフトウェア	15,189	16,121
ソフトウェア仮勘定	5,388	13,461
のれん	119,817	117,742
無形固定資産合計	140,394	147,326
投資その他の資産		
投資有価証券	59,470	109,470
敷金及び保証金	190,439	128,764
繰延税金資産	82,674	87,476
その他	438	1,841
投資その他の資産合計	333,022	327,552
固定資産合計	493,149	680,794
資産合計	1,822,576	1,653,470

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,188	52,668
1年内返済予定の長期借入金	14,570	—
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	148,660	148,660
未払金	70,085	107,603
未払費用	68,339	81,227
未払法人税等	64,596	4,821
未払消費税等	106,030	41,514
契約負債	122,506	140,904
賞与引当金	150,337	37,716
役員賞与引当金	14,500	4,500
株式給付引当金	14,908	19,411
役員株式給付引当金	4,304	8,823
その他	13,742	61,168
流動負債合計	833,769	709,019
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	48,232	48,232
株式給付引当金	11,296	12,046
固定負債合計	59,528	60,278
負債合計	893,297	769,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	408,033	413,753
新株式申込証拠金	—	128
資本剰余金	456,669	462,388
利益剰余金	126,213	25,953
自己株式	△59	△108
株主資本合計	990,857	902,116
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,737	977
その他の包括利益累計額合計	1,737	977
非支配株主持分	△63,315	△18,922
純資産合計	929,279	884,171
負債純資産合計	1,822,576	1,653,470

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	807,455	1,000,871
売上原価	483,057	555,552
売上総利益	324,397	445,319
販売費及び一般管理費	375,679	509,603
営業損失(△)	△51,281	△64,284
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	—	112
保険解約返戻金	8,007	—
為替差益	671	156
雑収入	—	16
営業外収益合計	8,679	286
営業外費用		
支払利息	183	27
社債利息	1,140	1,708
株式交付費	380	382
営業外費用合計	1,704	2,118
経常損失(△)	△44,306	△66,116
特別利益		
新株予約権戻入益	550	—
資産除去債務戻入益	—	4,790
特別利益合計	550	4,790
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,756	△61,326
法人税等	15,879	△4,365
四半期純損失(△)	△59,635	△56,960
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△40,604	△23,967
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△19,030	△32,993

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純損失(△)	△59,635	△56,960
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,255	△1,014
その他の包括利益合計	1,255	△1,014
四半期包括利益	△58,379	△57,974
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△18,088	△33,753
非支配株主に係る四半期包括利益	△40,290	△24,221

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっています。

なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コンサルティング事業	アオラナウ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	723,755	83,699	807,455	—	807,455
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,452	2,512	14,964	△14,964	—
計	736,207	86,211	822,419	△14,964	807,455
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	20,358	△71,640	△51,281	—	△51,281

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の取引消去等です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コンサルティング事業	アオラナウ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	821,702	179,169	1,000,871	—	1,000,871
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,300	15,313	21,613	△21,613	—
計	828,002	194,482	1,022,485	△21,613	1,000,871
セグメント損失(△)	△20,091	△44,192	△64,284	—	△64,284

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の取引消去等です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「アオラノウ事業」の重要性が増したことから、従来の「デジタルプラットフォーム事業」の単一セグメントから、「コンサルティング事業」、「アオラノウ事業」の2区分に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	3,254千円	10,842千円
のれんの償却額	3,423 "	3,423 "